



ゆづりは

堺市立図書館だより

第9巻 第3号 (通巻33号)

発行日 平成26年12月10日

編集・発行 堺市立中央図書館

〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1

電話 072(244)3811

Fax 072(244)3321

URL <http://www.lib-sakai.jp/>

堺っ子読書フォーラム 「ひらいてみよう本の扉」

第一部 事例発表

- **学校図書館が子どもの未来をつくる**
発表／学校教育部学校企画課
- **おはなしウーフの会の活動報告**
～昔話の魅力を語り続けて～
発表／おはなしウーフの会
- **事例発表を受けて**
発表／中央図書館

第二部 講演

- **「本は不思議の扉」**
児童文学作家 富安陽子さん



「2014年第68回読書週間」ポスター

今年も、読書週間にあわせ、平成26年10月26日(日)中文化会館で、子ども読書活動に関わる市民と行政が一堂に会し「堺っ子読書フォーラム『ひらいてみよう本の扉』」を開催しました。

第一部の事例発表では、まず、学校企画課から、学校図書館を子どもの育ちを支える重要な拠点と位置付け、「読書センター機能・学習センター機能・情報センター機能」の構築を目指し取り組みを進めていることを紹介しました。

次に、おはなし(ストーリーテリング)ボランティア「おはなしウーフの会」に20周年の節目を迎える本年、今までの活動を振り返り発表を行っていただきました。「おはなしウーフの会」は、中区を中心に、地域の学校園(保育所)に出向き、「おはなし会」を年間のべ約500回(平成25年度実績)実施されておられます。当日は、聞き手を自然におはなしの世界に引き込む「おはなし」の実演をご披露いただきました。

最後に、図書館から、学校園への団体貸出での、先生の指導案などを参考にしながら、授業のねらいに沿った資料を提供した事例やボランティアとの協働などについて紹介しました。



第二部では、大阪府在住の児童文学作家、富安陽子さんに「本は不思議の扉」と題した講演を行っていただきました。

一つの作品が出来上がるまでの絵本製作の流れ、ストーリー担当作家、絵を担当する作家、出版社の担当編集者の仕事など、興味深いおはなしをご紹介いただきました。

児童文学作家 とみやすようこ
富安陽子さん

大阪府在住。
梅花女子大学特任教授。
おもな作品に、『クヌギ林のザワザワ荘』(あかね書房/小学館文学賞・日本児童文学者協会新人賞)、『やまんば山のモッコたち』(福音館書店/IBBYオナーリスト2002文学作品)、『盆まねき』(偕成社/野間児童文芸賞)、「シノダ!」シリーズ(偕成社)、『まゆとおに』(福音館書店)など、多数の著作がある。



©講談社

目次

堺っ子読書フォーラム 「ひらいてみよう本の扉」	… 1
課題解決支援講座 「ニュータウンに住んで 農業をすることについて」	… 2
シリーズ堺の〇〇 堺の菊人形・大浜菊人形館	… 2
この本で解決! ～柿について～	… 3
堺かるた いろはの「け」	… 3
司書のイチ押し! 『やりたいことは 二度寝だけ』	… 4
堺市立図書館電話番号一覧	… 4

ゆづりは

とは・・・

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人、河井醉茗氏の歌碑があります。

年ごとに
ゆづりゆづりて 譲り葉の
ゆづりしあとに また新しく

この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だより「ゆづりは」と名づけました。



課題解決支援講座

「ニュータウンに住んで 農業をすることについて」



南図書館で、課題解決支援講座を
11月15日（土）に開催しました。

図書館は、地域の発展を支える情報
拠点を目指し、地域の課題解決のための
支援や利用者が抱える課題解決のための支援サ
ービスの充実に取り組んでいます。

この講座では、50歳代半ばで会社
を早期退職し、堺市で新規就農され、
現在、泉北ニュータウンに住み、美木多で農家を
しておられる柳川宗一さんやながわ そういちに、「ニュータウンに
住んで農業をすることについて」というテーマで
都市近郊で就農した経験から感じた課題や可能
性について、お話しいただきました。



また、堺市立美木多中学校の取り組みとして、

生徒たちが羊の飼育や野菜の栽培を行っている事
例を紹介し、農業体験が深い人間力の形成につな
がることなども語っていただきました。

参加者からは、「農の価値を改めて掘り下げてお
られ、現代を生きる我々にとても大切なことを教
えられた」「農に対する考え方も、自分の中で変わ
りました」という感想が聞かれました。

南図書館ロビーではパネル展示を行い、11月
のブックフェア「農のある暮らし」と題して関連
資料の展示やリスト配布も行いました。

図書館では、これからも、医療・健康・福祉・
労働・子育て等様々な
分野での課題解決支援
サービスを充実させ、
「市民の暮らしに役立
つ図書館」としての魅
力を高めていきたいと
考えています。



シリーズ 堺の〇〇

堺の菊人形 大浜菊人形館



菊人形というと枚方が有名ですが、堺の大浜公
園にもかつては菊人形館が存在していたというこ
とをご存知でしょうか？

大浜は昔から風光明媚な場所として知られてい
て、明治12年（1879年）から公園として整備
されてきました。明治36年（1903年）第5回
内国勸業博覧会の第2会場になり、当時東洋一と
いわれた水族館が建設されました。この地を目を
つけた阪堺軌道株式会社は明治45年（1912年）
堺市と契約を結び、公園の経営に乗り出しました。
同じ年に大浜公会堂や大浜潮湯などを開業し、大
正3年（1914年）には貝人形を観覧する施設と
して、竜宮殿を建設しました。

大正4年、阪堺軌道株式会社を合併した南海鉄
道は貝人形にかわって菊人形を興行することにし
ました。当時菊人形は集客の見こめる催しだった
からです。これに名乗りを上げたのが乃村泰資で
す。

泰資は名古屋や東京の両国国技館で菊人形の興
行を成功させていました。泰資や両国国技館の

春日野らが出資者となり、大正6年（1917年）大
浜菊人形館が建設されました。泰資は設計師として
菊人形の興行全体を取り仕切りました。

菊人形は大当たりし、大正8年（1919年）には
霧島つつじを用いた霧島人形も興行されました。
ところが、大浜の菊人形の人気はその後下降線をたど
り、大正10年（1921年）の興行を最後に閉館が
決まりました。そして、その翌年には大浜菊人形館
の設備はひらかた菊人形に売り渡されることになっ
たのです。もし大浜菊人形館がひらかた菊人形に売
り渡されなければ、菊人形といえば堺が有名という
ことになっていたのかもしれませんが。

絵葉書



堺大演菊人形番組



参考文献

- 『時空を超えて 株式会社乃村工藝社 120年史』
株式会社乃村工藝社／編 2012年
- 『日本装飾屋小史』清水章／著 創元社 2006年
- 『大正期鉄道資料第2期第10巻 開通五拾年南海鉄道発達
史』野田正穂[ほか]／編 日本経済評論社 1992年
- 『枚方市史 第4巻』
枚方市史編纂委員会／編 枚方市 1980年

この本で解決！ ～ 柿 について～

収穫の秋を終え、食卓にも野菜、果物等々おいしいものが、たくさん並びますね！

今回はその中のひとつ「柿」についての質問事例をご紹介します。



Q. しぶ柿のしぶの抜き方を知りたい。

A. 『手作り日本食シリーズ 健康食柿』（傍島善治／著 農村漁村文化協会）には、湯抜き、焼酎抜き、ドライアイス抜き、凍結抜き、水漬け抜き、灰汁抜き、すくも包み抜き、焼き抜き、石灰抜きといった多様な方法が紹介されています。

『果樹園芸大百科6 カキ』（農山漁村文化協会）という大冊子の図書には、P329～P359に「脱渋の基礎」という項目があり、詳しい解説が載っています。内容が栽培業者向けの専門的なもので、大掛かりな設備を使用しての炭酸ガスによる急速脱渋方法等が載っています。

他には『かがくのとも かき』（矢間芳子／さく 福音館書店）には、しぶを抜く方法が絵で4ページにわたって描かれています。巻末には「渋柿を甘くする方法は、いろいろあります」と題して、7種類の方法が紹介されています。

（児童書は写真や図が多くわかりやすく解説されていますので、調べ物の際には、一般書とあわせて利用されることをおすすめいたします。）

Q. 「柿しだれ」と呼ばれる、柿をたくさん干している写真が見たい。

A. 『柿の里 ふるさとが実る頃』（西村豊／写真・文 講談社）に甲州（山梨県）で撮った「柿しだれ」が豊富に載っています。いくつかまとめて見たいとのご要望でしたので、色々な風景写真集を探しました。

『こころの風景2008』（田沼武能・水越武・三好和義 選 読売新聞社）P38 や『同2011』（田沼武能・三好和義 選 読売新聞社）のP63、『里山の道』（今森光彦 新潮社）P58、『訪ねてみたい！21世紀に残す日本の風景遺産100選』（読売新聞社）P68に載っていることが確認できました。

『美しい日本の原風景』（洋泉社）は大型の本で見開きいっぱいに（P41）近距離から撮影されたものが掲載されています。



今回、ご紹介した図書に掲載の「柿しだれ」の撮影地は、「枯露柿」で有名な甲州をはじめとして、岩手県（盛岡市）、福岡県、佐賀県（大和町）、そして和歌山県（かつらぎ町）と広範囲でした。

奈良県には柿博物館があります。（問い合わせ先：奈良県農業研究開発センター果樹・薬草研究センターTEL：0747-24-0061）柿に関する資料や展示物を無料で見ることが出来ますので、興味をお持ちの方は訪問されてみてはいかがでしょうか。

堺かるた - いろはの「け」

「遣明の 船は出てゆく 堺港」

日本と中国の正式な条約に基づいた貿易は応永11年（1404年）に始まりました。倭寇に手を焼いていた明の永楽帝と將軍足利義満との間に通商条約が結ばれたのです。

初めは兵庫（神戸）港を中心として行われていたこの遣明貿易ですが、文明八年（1476年）から船が堺港に発着するようになりました。無事に帰国すれば利益は大きく、この貿易を独占することで、堺の町はますます豊かになっていきました。



参考文献

『堺一海の都市文明』角山 榮（PHP 研究所）
『堺のあゆみ』尼見 清市（堺商工会議所）
『むかしの堺』別所 やそじ共著（堺児童文化振興会）
『堺かるたの本』別所 やそじ編（堺かるた普及会）

司書のイチ押し！

「やいたいことは二度寝だけ」 津村記久子／著 講談社

著者の津村記久子さんは、大阪市在住の兼業作家です。昼間は会社員として働き、夜は作家として執筆活動に取り組んでおられます。

ご自身が初めて勤めた会社でパワーハラスメントを受け退職した、という過去を持っておられ、作品には、仕事や生きることへのやりきれなさに関する描写、挫折を経験する人物がたくさん登場します。また、小説だけでなく新聞などでコラム、エッセイを執筆しておられ、それらを集めて1冊にしたものが本書です。

著書には、思わず笑ってしまうシーンが多く登場しますが、本書も例外ではありません。「笑える」という観点からの個人的なおすすめ3本は「小説には書けない好きな言葉」「ドラクエと私の二十年」「二〇一〇年W杯に向けて」です。

「作家」というと華やかな職業、というイメージを持ちがちですが、著者は良い意味でとても庶民的。「ノートのことをとても愛していて、高価なものもたまに買うが、実用するのは会社で出たミスコピーの裏紙で作ったメモ帳である」など、本書でも数々の儉約エピソードを披露しています。

自身が現役で会社員として勤務していることもあり、世間一般の「働く人」の実情をよく理解していて、とても親近感が湧きます。／

「登場人物は作者に似る」と言いますが、著書にも贅沢な夢は持たず、日々にささやかな喜びを見出し堅実に生きている、といった登場人物がよく出てきます。



芥川賞受賞作『ポトスライムの舟』の主人公は、転職先の工場に貼られていた世界一周クルージングのポスターを見て、実際に行くかどうかはわからないまま、とりあえずその資金163万円を貯めてみるために「中高生の方が気軽にお金を使うのでは…？」と読み手が思うほどの儉約生活を送ります。

本書からは会社員として、そして作家としての苦労や苦悩も垣間見え、生活のための仕事をしながら好きな仕事をするの大変さがうかがえます。それこそ本書のタイトルの通り、ゆっくりと二度寝をする時間もあまりないのでしょう。

きっと沢山いるであろう生活のために夢を諦めた人にとって、彼女は憧れの存在。大変だけれど、これからも面白い作品を書き続けて、いろいろな人に希望を与える存在でいてほしいと、ひっそりと願っています。(S)

関連図書

『ポトスライムの舟』 津村記久子／著(講談社)

堺市立図書館電話番号一覧

音声応答サービス	280-0415	東図書館	235-1345	北図書館	258-6850
中央図書館	244-3811	初芝分館	286-0071	美原図書館	369-1166
くすのき号	244-3811	西図書館	271-2032	人権ふれあいセンター図書ホール	245-2534
堺市駅前分館	222-0140	南図書館	294-0123	青少年センター図書室	228-6331
中図書館	270-8140	梅分館	296-0025	ホームページ URL	http://www.lib-sakai.jp
東百舌鳥分館	234-9600	美木多分館	296-2111	携帯ホームページ URL	http://www.lib-sakai.jp/m/

